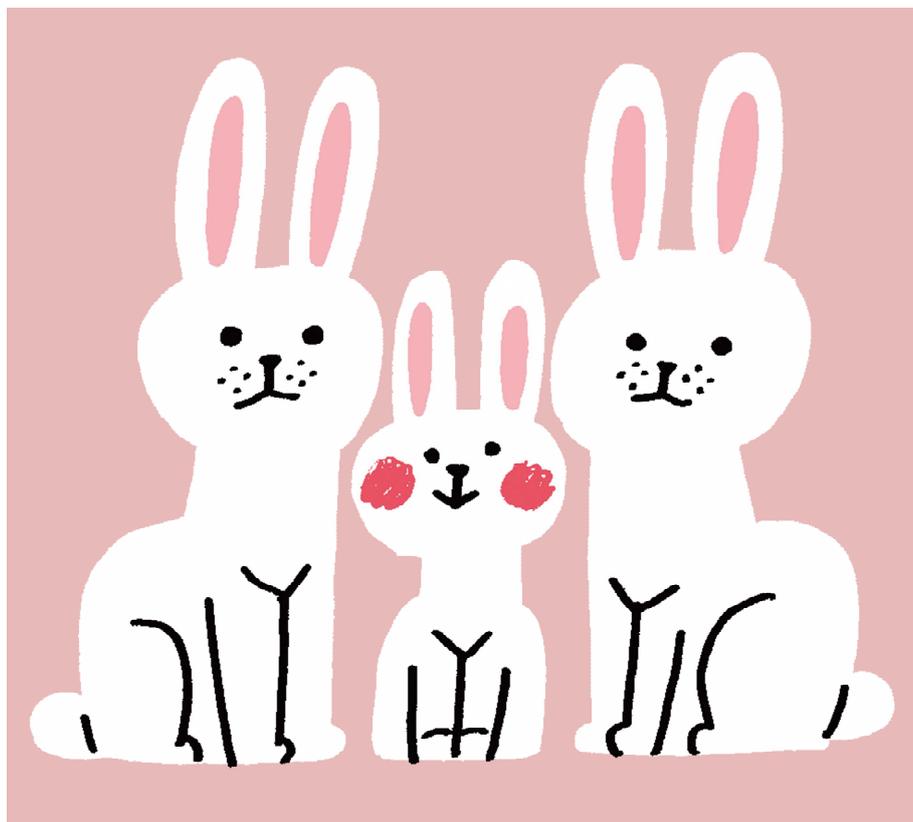


高知県

新生児聴覚検査実施マニュアル



高知県健康政策部健康対策課

平成 28 年 3 月
(平成 31 年 3 月改訂)

はじめに

難聴は、気づかれにくい障害です。新生児期から難聴をもつお子さんは、500人から1,000人に1人くらいいらっしゃると言われていますが、過去には、2歳を過ぎてから、ことばがでない、遅いなどで発見されることが多かったようです。ことばが発達していく途上に難聴があると、ことばの習得に障害が現れ、将来社会生活を送る上で大きな支障になってしまいます。

さらに、難聴は、難聴以外の障害（知的障害、発達障害など）によりことばの発達に問題があるお子さんにも合併することがあります。県外のある知的障害特別支援学校での調査では、在籍児の4%に難聴がありましたが、難聴に対しても早くから適切な療育が行われていれば、難聴以外の障害の程度も軽減できた可能性が高いです。発達障害の早期対応が求められる現在では、難聴に対する取り組みもしっかりと行われなければなりません。

これらの現状に対処するためには、難聴の早期発見、早期療育のためのシステム化が大変重要です。難聴には、新生児期にすでに障害がある場合と、乳児期以降に聞こえが悪くなっていく場合の両方がありますので、新生児聴覚スクリーニング検査、乳児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の各段階において、きこえの問題を適切に発見することが求められるとともに、家庭や保育所、幼稚園などでは、きこえとことばに注意をはらい、保護者等がこれらの不安を感じたときには、適切に相談を受けられるシステムを整備する必要があります。

現在では、早期に発見して療育することで、新生児期からの難聴があっても、ことばの発達において飛躍的な進歩が得られるようになってきています。自動聴性脳幹反応という検査方法により、生まれて間もない時期に、きこえの程度を推測することができるようになってきました。

新生児聴覚検査は、新生児期の難聴を早期に発見し、適切な療育を受けるための大切な検査です。

高知県内では、平成28年5月から一部市町村にて新生児聴覚検査に係る費用の全額公費負担を開始し、平成29年4月から全市町村で実施され、受検率も100%に近づきました。平成30年度からは、新生児聴覚検査連絡協議会を設置し、NICU入院児を対象とした新生児聴覚検査結果を分析し、精度管理を進めているところです。

このような状況を受け、新生児期の難聴の早期発見・早期療育を的確に行い、難聴のある子どものよりよい人生に資するために、高知県周産期医療協議会及び日本耳鼻咽喉科学会高知県地方部会の協力を得て、平成28年3月に作成したマニュアルを見直し、現状に合わせた内容に改訂しましたので有効に活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、マニュアルの作成にあたり、多大なる協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成31年3月

高知県健康政策部健康対策課長
川内 敦文

このマニュアルは、利用対象者を産科医師、新生児科医師、助産師、保健師とし、新生児聴覚検査を正確に実施し、さらに検査が必要なお子さんは確実に精密検査に結びつけていただけよう、きこえの説明や検査の実施方法から精密検査に至るまでの過程、及び地域でのフォローについて記載しています。

精密検査の方法の詳細や、治療や療育の実際、難聴児の生活などについては、専門的な内容となることや、個別のケースによって異なるため、このマニュアルには記載していません。

詳細をお知りになりたい場合は、67、80 ページに参考となる書籍やホームページ URL を記載しておりますので、参照ください。



【平成 31 年 3 月の主な改訂点】

- ①平成 29 年 4 月から高知県内全市町村が全額公費負担実施となったため、説明から私費を削除し、必要な説明・様式を追加。
- ②一側 REFER ケースで、1 回目実施と再検査の REFER 側が入れ替わるケースが報告されたため、AABR の再検査を両側実施と記載。
- ③高知大学医学部附属病院予約センターの予約システム変更に伴う修正。
- ④月齢 1 か月を超えると、筋電図混入によって AABR 実施が困難なケースがあることから、生後 1 か月以内（早産児の場合は相当する月齢）の実施を推奨。
- ⑤精密検査実施機関である高知大学医学部附属病院と市町村間の連絡について追記。
- ⑥高知県立療育福祉センターに新生児聴覚検査に関するデータを収集し、精度管理を行う旨の追記。
- ⑦低体重出生児等の未熟児への新生児聴覚検査について、新たな知見に基づき説明を修正。

もくじ



難聴について	7
きこえの仕組みと難聴	8
子どもの難聴をおこす疾患	10
乳幼児の難聴	13
新生児期に見つけるべき難聴	14
新生児期には発見できない難聴	15
高知県での新生児難聴発見シミュレーション	16
一側REFERと両側REFER	17
新生児聴覚検査の方法	19
AABRの実施方法	20
新生児聴覚検査の実施	23
公費の書類について	24
AABR検査にあたっての説明と同意	40
結果の解釈	42
AABRの2回法- 1回目がREFERの場合-	43
検査の判定と事後フロー	44
(正常判定の説明)	45
(要精密検査の説明)	47
公費負担関係処理のまとめ	55
要精密検査となったら 精密検査へつなぐ	57
市町村役場保健師への連絡	58
要精密検査の連絡票を受け取った市町村役場では	60
精密検査の重要性について	60
この段階での母親支援	61
親が精密検査の受診をためらった場合	62
精密検査、療育	65
高知県における精密検査・療育	66
新生児聴覚検査の精度管理	69
新生児聴覚検査の精度管理	70
その他	71
早産児、低出生体重児、NICU入院児、重複障害児などの聴覚検査について	72
そのほかの新生児聴覚検査方法	75
乳児の聴覚発達チェック項目	77
月齢に応じた聴覚の発達チェック 簡易版	78
月齢に応じた聴覚の発達チェック 詳細版 (原典)	79
参考文献	80

